

ナシ「秋麗」の小袋掛けによる果皮表面のサビ軽減効果

「秋麗」では、満開 30 日頃に赤色のワンタッチ小袋（レッド6）を掛けることにより、糖度を低下させずに無袋果実よりサビ発生を軽減できる。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室（担当者：藤丸 治）

研究のねらい

「秋麗」は、高糖度で食味が優れる青ナシであるが、無袋栽培では果実表面にサビが多く発生しやすい。一方、有袋栽培をするとサビの発生は軽減できるが、糖度が低下し食味が落ちる（農業研究成果情報 No, 241）。また、「秋麗」のサビの発生程度は園地によって差があり、園地ごとに果実外観が大きく異なるため、サビ発生が著しいところでは問題になっている。

そこで、サビ軽減と果実品質の維持を目的として、無袋果実と比較し、小袋（写真 1）を掛けた際のサビ発生程度と果実品質を明らかにする。

研究の成果

1. 小袋のピンク 6（桃色）および PK 6 号（白色）では有袋（白一重）果実と同様にサビの発生が少ないのに対して、レッド 6（赤色）では他の果実袋と無袋の中間程度となる（図 1 および写真 2）。
2. 果実糖度は、ピンク 6 および PK 6 号では無袋と比較してやや低くなるが、レッド 6 では無袋果実と有意差はなく、食味も良好である（図 2）。

普及上の留意点

1. 小袋を掛けた後は、特に除袋作業は必要ない。
2. レッド 6 は、無袋栽培で特にサビの発生が著しく、赤ナシ様の外観となる園地でのみ使用する。
3. 小袋のレッド 6 の値段は約 3 円/袋で、24,000 円/10 a 程度（10 a 当たり 8,000 果として）必要である。



写真1 通常の果実袋（白一重袋）とワンタッチ小袋
（左から白一重袋、PK 6号、ピンク 6、レッド 6）

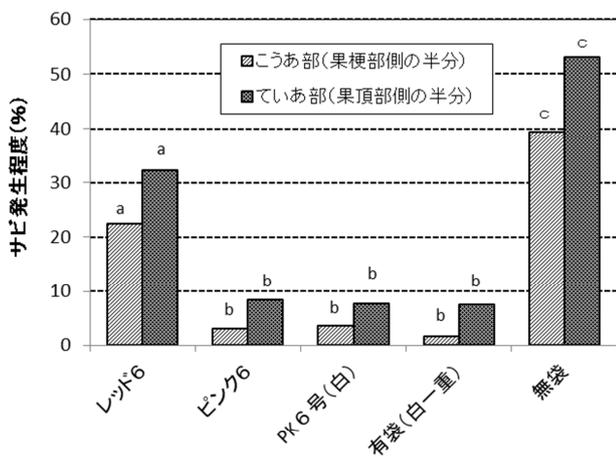


図1 「秋麗」における果実袋の違いによるサビ発生程度への影響

注) 袋かけは満開30日後に実施
注) こうあ部およびていあ部の各データ上の異符号間にはTukeyの多重検定により5%水準で有意差あり

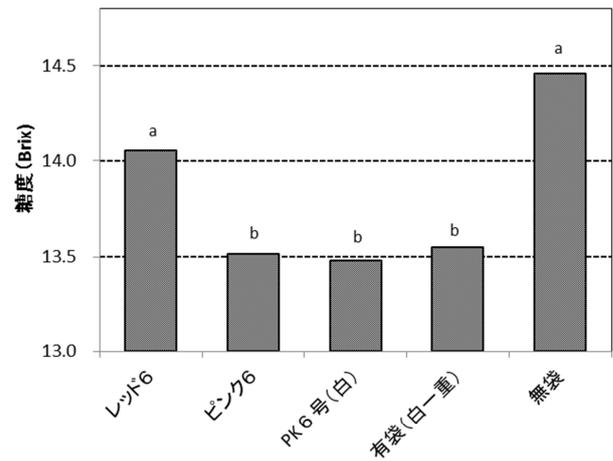


図2 「秋麗」における果実袋の違いによる糖度への影響

注) 袋かけは満開30日後に実施
注) データ上の異符号間にはTukeyの多重検定により5%水準で有意差あり



写真2 「秋麗」の果実小袋の違いによるサビ発生程度（上：こうあ部側 下：ていあ部側）